

成蹊大学 企画講座

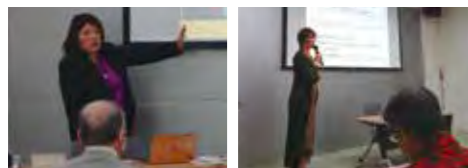
「小中学生のための『雲の教室』
オーロラと宇宙の天気」

成蹊大学では、90年以上にわたり、武蔵野・三鷹地域の気象を観測し続けています。また、持続可能な社会の担い手を育てる教育への取り組みを進めており、2018年4月にサステナビリティ教育研究センターが開設されました。同センターとの連携事業として、気象や自然環境をテーマとした講座を実施しました。

日本女子体育大学 企画講座

「筋肉は使うと増える」
「東京2020オリンピック・パラリンピックを
100倍楽しむ方法」

健康長寿に関連する講座や在学教員のオリンピック(メダリスト)を招き東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の機運醸成につながる講座を開催しました。



■ 教授 溝口紀子氏
(元柔道女子日本代表)
■ 准教授 セッターランド・ヨーコ氏
(元バレーボール女子米
国代表)

東京学芸大学 企画講座

子ども支援学講座

子どもの支援に関するボランティア養成を目的として、教育学の専門家や、三鷹市で子どもの支援に関わっている実践家等を講師に招き、全12回の講座を実施しました。修了者は、(一社)教育支援人材認証協会が発行する「こども支援士」の認証取得の申請ができる講座で、10名が申請し認証取得しました。

国際基督教大学 寄付講座

“数学の夕べ”

国際基督教大学教授の清水勇二氏及び元上級准教授の土屋あい子氏による講座「数学の夕べ」。令和元年度は『現代数学の基礎概念』を年間のテーマに掲げ、5回開催しました。令和2年度は、没後100周年の数学者ラマヌジャンに焦点をあてるなど、オムニバス形式で実施する予定です。

東京女子大学 寄付講座

“数学はこんなに面白い！”
“数学カフェみたか”

東京女子大学名誉教授の小林一章氏による講座で、数学が好きな方や、数学で語り合う仲間を見つけたい方に最適な、人気講座です。小林氏は長きにわたり数学の教育と研究の発展に尽力され、振興にも広く貢献したことが認められ、令和元年秋の叙勲において、瑞宝中綬章を受章されました。今後のますますのご活躍をお祈りいたします。

ルーテル学院大学大学院 企画講座

「高齢者福祉研究—地域包括システムの強化をめざして」

ルーテル学院大学元学長・教授である市川一宏氏による講座です。高齢者が直面する生活問題を理解し、高齢者福祉の現状と課題を掘り下げ、新たな高齢者福祉の施策と展望を描こうとするものです。社会福祉関係従事者の方を主な対象としており、同大学院の正規講義です。参考文献：『人生100年時代の地域ケアシステム—三鷹市の地域ケア実践の検証を通して』(発行：三鷹ネットワーク大学)

杏林大学 公開講演会

「翻訳者が教える英語攻略法」ほか

三鷹市が平成25年に地域の大学との初の包括的な連携協定を締結した杏林大学と連携し、同大学が得意とする医療系、人文社会科学系の公開講演会・公開講座を開催しました。市内外から多くの受講者が訪れるなど、たいへん好評を博しました。

アジア・アフリカ語学院 寄付講座

アジア・アフリカ語学体験講座

アジア・アフリカ地域の言葉の魅力を知る機会として、春と秋に語学体験講座を開講しました。同学院のアラビア語、インドネシア語、韓国語、スワヒリ語、タイ語、中国語、ヒンディー語、ベトナム語、ロシア語の講師をお呼びし、各国・地域のことに触れながら、話したり書いたりすることにも挑戦する語学入門クラスです。

中日文化研究所 寄付講座

「雲南から日本が見える」ほか

賛助会員である(一社)中日文化研究所と連携し、“シルクロードの中の日本文化”を題材とした講座を開催しました。日本文化の核を再確認し、文化多元の世界の中で日本文化を考えようとする講座となりました。また、映画『永遠のモダンを庭園に一闇夜につぶてを投げた人・重森三玲』の上映会も行いました。

三鷹の森ジブリ美術館 企画講座

アニメーション文化講座 表現の追求
“手描きのアニメーション美術”

令和元年度で第8回を迎えた当講座。今回は心に残る数多くの作品の美術監督を務めてきた小林七郎氏をはじめ、アニメーション関係者の取材を重ねて書籍や画集の数々を監修した野崎透氏、西洋と日本の近代・現代美術を研究してきた東京国立近代美術館主任研究員の鈴木勝雄氏をお迎えして、各専門の方々の視点から、日本のアニメーション美術を紐解く講座を提供しました。

国立天文台 企画講座

“アストロノミー・パブ”

市民と研究者との相互コミュニケーションを目的としたサイエンス・カフェの天文版です。前半はホストとゲストによる「トークタイム」、後半は自由に対話を楽しむ立食形式の「パブタイム」という構成で実施しています。第159回は、新型コロナウイルス感染症の影響により、実地開催は中止とし、講座内容を収録したものを受講申込者全員(42人)に動画で配信しました。

| 回(通期) | 開催日 | タイトル |
|-------|-----------|-------------------------------|
| 149 | 4月20日(土) | 天文学と機械学習 |
| 150 | 5月18日(土) | 歌舞伎と宇宙 |
| 151 | 6月15日(土) | 銀河の分類に参加しよう—市民天文学への招待 |
| 152 | 7月20日(土) | 超大ブラックホールを取り巻く「ドーナツ」構造の正体をあばく |
| 153 | 9月21日(土) | 【拡大版】EHTメンバーが語る、ブラックホール撮影の舞台裏 |
| 154 | 10月19日(土) | 科学のミカタ@ミタカ—宇宙に最も近い場所、南極 |
| 155 | 11月16日(土) | 地上の太陽—1億2千万度への挑戦 |
| 156 | 12月21日(土) | 太陽活動と天気との関わりを迫る—宇宙気候学の今 |
| 157 | 1月18日(土) | 人類の宇宙への進化と文化・芸術 |
| 158 | 2月15日(土) | 天文装置開発の実際 |
| 159 | | 【録画配信】宇宙はなぜ暗いのか？ |



● 2019年度「民学産公」協働研究事業

2019年度は6団体を採択しました。屋上を利用した農園プロジェクトや日時計開発など新規技術やシステムの開発、日常のメンタルヘルスや「がん哲学外来」などの福祉・健康に関する研究、野川流域の「はけ」の研究など、今年も多岐にわたる研究を実施しました。成果報告書は7月に三鷹ネットワーク大学 HPに掲載される予定です。ぜひご覧ください。

Aコース 助成の上限：50万円、助成率：50%

- 電気通信大学(教授 佐藤証) 「調布第一小学校屋上スマート農園プロジェクト」
- 法政大学(教授 八名和夫) 「市民の日常的メンタルヘルスケア実現に向けた調査研究」
- (合) 科学成果普及機構 「『国立天文台がある三鷹』を日時計の街にプロジェクト」
- (NPO) グリーンネックレス 「はけのメディアラボ事業—はけを舞台とした、SDGs プログラム研究・実証事業」

Bコース 助成の上限：15万円、助成率：100%

- 酒井 久実代(和洋女子大学・教授) 「インタラクティブ・フォーカシングを活用した『がん哲学外来』が精神的健康に及ぼす効果の検討」
- 笹川 翔太郎(法政大学・学部生) 「Find You」



電気通信大学校舎屋上の水耕栽培施設でのイベントの様子

新事業

「まちづくり研究員」を市民33人に委嘱



「三鷹まちづくり総合研究所」の新たな事業として、近隣の4大学の協力により市民の研究や論文執筆を支援する「まちづくり研究員」の取り組みを開始しました。3月末までの募集に予想を超える多数の応募があり、募集時の論文コースに加え、急遽まちづくり提案コースを増設することとし、厳正な審査を経て33人に研究員を委嘱しました。

思いがけず新型コロナウイルス禍の中での出発となり、審査や今後の研修・交流などをオンラインで進めています。これからの調査研究等にもさまざまな影響があるかもしれませんが、年齢も職業も多様な「まちづくり研究員」が、コロナ後の新たな地域社会も見据えて、多岐にわたる各々の研究テーマに取り組んでいきます。

